

クリニックレター 2015.6月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

漢方生薬「黄耆」の腎機能改善作用について

「肝腎かなめ」という言葉があるように、「腎臓」は人間にとって非常に大事な臓器の一つです。

腎臓は毎日7200L(実にドラム缶40本分!)の血液をろ過しており、老廃物を含んだ排液である「原尿」を毎日150L作り出しています。その原尿は腎臓で再び吸収されて、約100倍に濃縮された尿が毎日約1.5L排出されています。この血液ろ過と再吸収を行うのが、腎臓の「ネフロン」という組織なのですが、このネフロンが正常に機能しなくなった状態が「慢性腎臓病」と呼ばれる病気です。慢性腎臓病は、高血圧、糖尿病、IgA腎症などでおこりやすく、病気が進むと、最終的には、人工透析をしなければなりません。人工透析になると、一日約5時間の透析を週3回以上することが必要になり、その費用は、患者様一人当たり年500万から1000万、日本全体で透析に要する費用は年間約3兆円、国民一人当たり約3万円を負担していることとなります。このように、肉体的にも経済的にも負担の大きい「人工透析」をなるべく避けるためには、

1、糖尿病や高血圧症などの基礎疾患の治療をおろそかにしないこと
2、食塩制限、たんぱく制限など、指導された食事制限を実施すること
などがありますが、最近の研究で、漢方生薬の一つである、「黄耆」に、腎機能の指標であるeGFR(糸球体濾過量)を改善させる作用があることが分かってきました。

そこで、私(西本)と神戸大学附属病院漢方内科のグループが、6月14日に富山で開催される日本東洋医学会学術総会で、「慢性腎臓病に対する黄耆単剤の効果」というテーマで研究発表をおこないます。

当クリニックの患者様でも、比較的軽症の腎臓病から、いつ透析に移行してもおかしくない重度腎不全の方まで、多くの方々に、(裏面へ続く)



黄耆(おうぎ)

マメ科キバナオウギの根

止汗、利尿、強壮効果があるとされ、補中益気湯、七物降下湯、防己黄耆湯など多くの漢方処方に配合されている

この「黄耆」を使っていますが、確実な腎機能改善効果があると、よい手ごたえを感じています。

今回の発表で、腎臓専門医にも「黄耆」の効果を知ってもらい、少しでも、人工透析に進む患者さんを減らし、ひいては日本の医療費の削減に寄与できればと考えています。

訃報

当クリニックのロビー、診察室に飾ってある絵の作者である、西山昇(にしやまのぼる)さんが、59歳という若さで亡くなりました。西山さんは、私(西本)と神戸大学で同期であり、彼は工学部、私は医学部でしたが、教養部時代に同じサークルに属していたことから友人となりました。大学卒業後は特許庁に入庁し、国家公務員の仕事をしながら創作活動を続けていましたが、30歳の頃、インド赴任中に全身性エリテマトーデスに罹患して帰国。その後、股関節の手術などを経験しながらも、仕事に、創作活動にと意欲を燃やし続けていましたが、昨年夏より、病状が悪化し、残念ながら今年2月28日、入院先の虎ノ門病院で、息を引き取られました。現在、御遺族が、画集作製にとりかかっておられるため、当院に飾ってあるいくつかの絵も、一時出張しています。

土曜日の外来日程変更についてのお知らせ

7月第1週より、土曜日の外来日程を下記のように変更いたします。

奇数土曜日(1・3・5週)

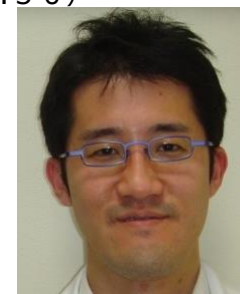
- 1階診察室：西本院長(内科) 9:00~13:30
- 2階診察室：田川直洋医師(内科・新任) (9:00~12:30)

偶数土曜日(2・4週)

- 1階診察室：西本院長(内科) 9:00~13:30
- 2階診察室：武内睦子医師(婦人科) (9:00~12:30)

*田川直洋(たがわなおひろ)医師

2007年 島根大学医学部(旧島根医科大学)卒
その後、神戸市立医療センター西市民病院、市立堺病院、兵庫県立尼崎病院 ER 総合診療科兼漢方内科などを経て、
2015年より 高雄病院 漢方内科
専門：内科・漢方全般



クリニックレターのバックナンバーをお読みにりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。